

登米市水道事業経営戦略（改定概要）

1 改定の経緯

現行の登米市水道事業経営戦略（以下、「経営戦略」という。）は、平成30年2月に策定されました。経営戦略に基づき健全化を図りながら、水道事業経営に取り組んでいるところです。経営戦略については3～5年で見直すこととされており、また、国より経営戦略に記載すべき事項が追加されたことへの対応などにより、今回見直しを行うものです。この経営戦略を経営の健全化を図る指針として、これからも効率的な経営に取り組んでまいります。

2 計画期間

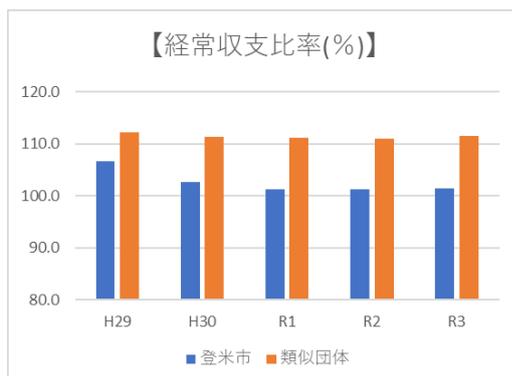
現行の経営戦略の平成29年度から令和8年度（10年間）を、令和6年度から令和15年度（10年間）に改めます。

3 事業の概要

(1) 事業の現況

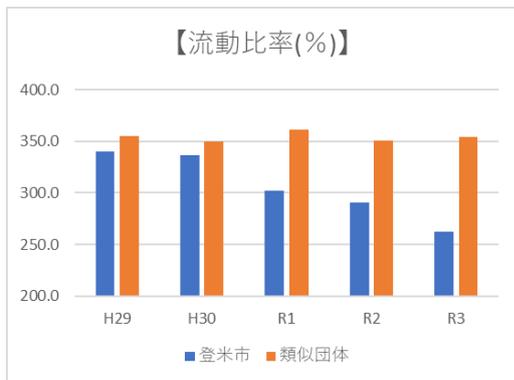
給水区域等	東和町山沢・余玉地区を除く登米市全域と涌谷町小里の一部 計画給水人口：76,600人、計画一日最大給水量：30,800 m ³ /日
取水施設 導水施設	下り松取水塔 大巻取水場 導水管延長：約6km
浄水施設	①保呂羽浄水場 ②石越浄水場 ③大萱沢浄水場 ④米川浄水場 ⑤錦織浄水場 ⑥米谷浄水場 ⑦楼台浄水場 ⑧合ノ木浄水場 ⑨大綱木浄水場 送水管延長：約20km
配水施設	配水池：21箇所 配水ポンプ施設：41箇所 配水管総延長：約1,386km
組織	令和4年度末現在、23人の職員が水道事業に従事しています。

(2) 経営指標による現状分析（令和3年度決算）



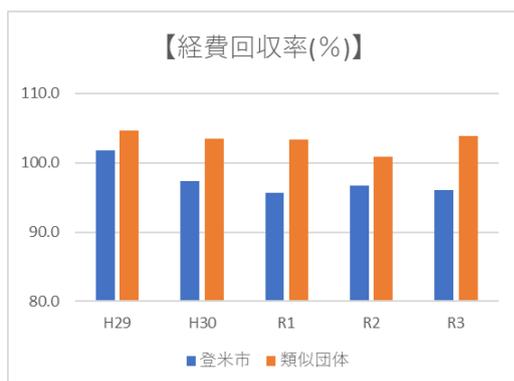
経常費用に対する経常収益の割合であり、100%以上が望ましいとされています。

令和3年度は100%を超えていますが、類似団体よりも低い水準となっており、減少傾向であることから、収益の確保と費用削減の対策が必要となります。



短期的な支払能力を示すものであり、100%以上が望ましいとされています。

100%を超えているものの類似団体よりも低く、減少傾向にあります。本市で目安としている250%を下回らないよう、流動資産を確保するための取組が必要です。



水道料金で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているか示すものであり、100%以上が望ましいとされています。

平成30年度以降100%を下回っており、類似団体よりも低くなっています。給水原価の削減を図るとともに、水道料金水準等の確認が必要です。

4 将来の事業環境

(1) 総人口等の見通し

総人口は、平成17年4月1日の9町合併以降、減少を続けています。市全体の人口減少に伴い、給水人口も減少し、水道料金の基となる料金水量も減少する見込みです。



(2) 水道料金収入の見通し

料金収入は、令和5年10月の料金改定により一旦増収となりますが、その後は人口の減少に伴う料金水量の減少とともに減少する見込みです。料金改定が1年間反映される令和6年度の料金収入に対し、計画期間末の令和15年度には8%減少すると予測されています。

5 課題

- ・人口減少の進行に対応した施設の適正配置
- ・施設老朽化への対応
- ・有収率の向上
- ・災害への備え
- ・漏水対策
- ・技術者、技術力の確保
- ・適切な水道料金の設定と維持管理費の削減
- ・ゼロカーボンシティへの取組

6 経営方針、数値目標と取組の概要

上記の課題に対応し、今後も持続可能なサービスの提供及び経営を行っていくため、水道ビジョンとの整合性を図りながら、経営方針を定めます。

また、具体的な数値目標を決定し、目標達成のための取組を実施します。

安定経営の水道
強い水道
安全な水道

7 投資・財政計画

令和5年10月の水道料金改定時の投資計画・財政計画を基に、令和4年度決算や令和5年度予算など最新の状況を反映し計画を作成します。

8 進行管理と事後検証

- ・経営戦略の進捗は、「計画策定」→「事業実施」→「評価・検証」→「改善・見直し」のサイクルにより、毎年確認を行い管理していきます。
- ・経営戦略の見直しにあたっては、基本的に概ね3年から5年で行うものとします。